

第6回 地域福祉におけるソーシャルネットワーク 2020/10/3 堀

課題文献

コミュニティ・ディベロップメントの実践と研究におけるソーシャルネットワーク分析の使用：ケーススタディ

Using Social Network Analysis in Community Development Practice and Research: A Case Study

Gretchen Marie Ennis and Deborah West

Community Development Journal, 48(1), 40-57, 2012

Gretchen Marie Ennis: Charles Darwin University (→青少年の芸術活動、がん患者)

Deborah West: Flinders University (→政治)

このテーマに関する Ennis and West の著作

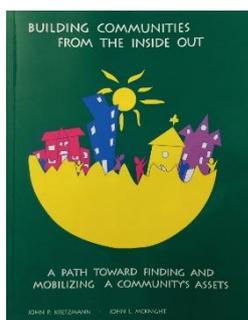
2010, Exploring the Potential of Social Network Analysis in Asset-based Community Development Practice and Research, *Australian Social Work*, 63(4)

2013, Community Development and Umbrella Bodies: Networking for Neighbourhood Change, *The British Journal of Social Work*, 44(6)

(参考) Asset-Based Community Development Institute

- Asset-based community development institute (ABCD) は、イリノイ州シカゴのデポール大学にあるコミュニティベースのサービス学習のための Steans Center にあります。
- ABCD の仕事の中心はコミュニティ能力の構築です。ABCD Institute Faculty はコミュニティグループと直接連携して、資産ベースのコミュニティ開発の取り組みをサポートしています。教員は、基調講演者、ワークショップとトレーニングのファシリテーター、テクニカルサポートプロバイダー、および学習参加者として、さまざまなローカル、リージョナル、および国際会議やワークショップにも参加しています。

<https://resources.depaul.edu/abcd-institute/Pages/default.aspx>



John P. Kretzmann, John L. McKnight (1993),

Building Communities from the Inside Out: A Path Toward Finding and Mobilizing a Community's Assets.

「基本的なマニュアル。John Kretzmann と John McKnight が資産ベースのコミュニティ開発アプローチの指針となる原則と実践を説明する精巧な巻。」(ABCD institute ホームページ)

要約

2010年、私たちは、ソーシャルネットワーク分析をコミュニティ・ディベロップメント実践に統合することは、コミュニティのミクロレベルとマクロレベルの問題を明確に結びつけ、コミュニティ・ディベロップメントワークのインパクトを調査するのに役立つ方法であると提案した。

この論文では、コミュニティのケーススタディから導き出された研究を紹介し、コミュニティ・ディベロップメントのプロセスにネットワーク分析を組み込む方法の実際例を示す。調査は、ソーシャルネットワーク分析手法が次のような様々な方法で役立つ可能性があることを示している。「コミュニティ」の批判的分析の促進、コミュニティワークのプロセスへの焦点づけ、そしてコミュニティワークの成果とインパクトに関する特別な理解である。

要約すると、調査結果は、ソーシャルネットワーク分析がコミュニティ・ディベロップメントを促進し、コミュニティ・ディベロップメント・プロジェクトの効果を測定するための有用なツールであることを示している。

事例：Ludmilla Neighborhood Connections (LNC)

時期 2009年1月から2010年7月

構成 草の根のボランティアベースのコミュニティネットワークによって行われたプロジェクト。バゴットコミュニティ（アボリジニのコミュニティ、Ludmilla 郊外）の住民やルドミラの他の地域の住民、および様々な地方自治体や非政府組織の代表者。

課題 アボリジニと非アボリジニの人々の社会的分離。近隣の異なる文化の人々への支援的なソーシャルネットワークを拡大し、その地域で広く「コミュニティの感覚を生み出す」こと。

方法 コミュニティ・ディベロップメントへの「強み strengths」または「資産 assets」アプローチを採用＝意味のある変化に向けて取り組む際にコミュニティの強みを強調し、動員する (Kretzmann and McKnight 1993)。コミュニティの主要な資源は人々、すなわち彼らの知識、文化、スキル、および地域へのコミットメントであることに参加者は同意した。参加者が識別したその他の資源または資産は、自然環境、地元の学校施設、および地域の様々な個人やコミュニティ組織の情熱と資源に焦点づけられた。

理論的背景

- ・(コミュニティワークのネットワーク・アプローチ論者＝(例：Trevillion 1992、1999; Gilchrist 2000、2004、2009; Hardcastle, Powers and Wenocur 2004; Gilchrist, Bowles and Wetherell 2010) は) 多様な人々や組織の集団間のポジティブなつながりを構築し維持することで、対話を促進し、リソース、情報、アイデアへのアクセスを開くことができ

ると論じている。

- ・サポートティブなソーシャルネットワークを増やすという目的は、ソーシャルキャピタル理論のアイデアにリンクしている。

=個人と組織間のリンクは、情報と資源の共有、および変化のための動員の鍵である。ソーシャルネットワークはソーシャルキャピタルの中心的な概念であり、通常、ソーシャルキャピタルが存在しうる「構造」と見なされている（Bourdieu 1986; Putnam 1993; Lin 2001; Stone 2001）（Ennis and West 2010, p.408）。

→バゴットコミュニティの人々と郊外の他の人々とを結ぶ関係はほとんどないとの仮定に基づいて、LNC プロジェクトはコミュニケーションと対話のリンクの開発に焦点を当てた。（=「架け橋」bridging ties=Putnam 2000; Healy and Hampshire 2002）

→橋を架けるための活動：

- ・10回のコミュニティミーティング開催
- ・庭師の朝、ガイド付きのブッシュウォーク、家族で過ごす1日、近所の朝食会、クリスマス集まり、大規模な広報会、大規模なコミュニティ DVD 祝賀ランチ会など。
- ・「食用庭園」プロジェクトの開発や地元の近所の DVD の制作など、様々なコミュニティイベントで他の地元組織と協力して作業。
- ・近隣のニュースレターの13版を400世帯以上に配布し、電子メールおよびSNSを介したオンライン情報ネットワークを開発

研究の方法

- ・プロジェクト前後のネットワーク分析
- ・Pajek (de Nooy, Mrvar and Bategelj 2005) を使用
- ・データの収集=雪だるま式のテクニック A snowballing technique
 - LNC メンバーとその接点のネットワークを「LNC コミュニティネットワーク」と呼ぶ
 - 「親しい友人または家族」と呼ぶかどうか
 - 「強いつながり strong tie」 / 「弱いつながり weak tie」
 - PJ 前 49 人 / PJ 後 61 人 (PJ 前からのメンバーは 32 人が残った)
- ・ネットワーク分析：構造と構成
 - 構造：「アボリジニ」、「海外生まれ」、「他の文化グループではないオーストラリア人」に分類（クラスター化）
 - ネットワークの構造には、ネットワークのサイズ、アクターの接続性、アクターの集中または分散、ネットワークのアクセス可能性、ネットワークのクラスター化の程度、アクターの異質性または同質性が含まれている（Wasserman and Faust 1994）。
 - 構成：LNC コミュニティネットワークが地域全体をどの程度反映しているか

結果（図 1=p.46、2=p.48 及び表 1=p.47、2=p.49 を参照のこと）

(1) 構成（文化的多様性）

PJ 前 LNC アボリジニ 10%（ルドミラ全体では 25%）、海外生まれはほぼ反映

PJ 後 LNC アボリジニ 13.1%、海外生まれ 16.4%（ルドミラ全体 14.8%）

→前向きな増加

(2) 構造

①ネットワークサイズ

PJ 前 49 人、61 のつながり (ties)

PJ 後 61 人、102 のつながり (ties)

→PJ 前の 17 人は「脱落」（9 人が引越し、3 人が個人的な問題を経験、5 人音信不通）

→新しいメンバーが 29 人参加。

②コンポーネント（サブグループ）

PJ 前 アボリジニ/他の文化グループではないオーストラリア人/オーストラリア人 (X-street)

PJ 後 1 つのネットワークにつながった

→PJ 後、アボリジニのコンポーネントは弱いリンクで広範なネットワークに接続された。

→PJ 後、X-street の 2 人は消え、残りは十分にリンクしている。

③平均次数（アクターに出入りするつながりの数）

PJ 前 平均 2.37 (1=19 人/38.8%、11=1 人「v1」)

PJ 後 平均 2.98 (1=14 人/23.0%、16=1 人「v1」)

要約=PJ 後のネットワークはより大きく、より多くのアクター間でより多くの接続がある。

ややまとまりがあり、PJ 前にはなかったクラスター間の架け橋のつながりがある。

ディスカッション

①「測定」する意味のあるサンプル母集団

*雪だるまのサンプル手法の有効性

・「雪だるまのサンプル手法は、それ自体、プロジェクトに関与している人々と、彼らの近隣でのコミュニケーションネットワークとの関係を理解するのに役立つ方法である。図を通じて『明らかに』されたネットワークは、近隣に形成されている新しいネットワークに関する情報を提供する。これは、LNC が現在および潜在的にアクセスできる『資産』を理解するのに役立ち、直接的な関係を介した LNC の近隣への『到達』を確認できる。」

②実践にフォーカスするためのネットワーク図の使用

*ネットワーク分析に対する多くの評価と実際の調査の少なさ

*ネットワーク図の使用に関する LNC の経験

→コミュニティワークの「関係づくり (linking up)」に戦略的な感覚をもたらす

→関係の実態面における地域の現状認識の促進

→前後のネットワーク図の比較によりネットワーク形成のエビデンスを提供

→強みに焦点をあてるアプローチは、資産のリンクに有効

- ・「ネットワーク分析は、1980年代以降、ソーシャルワークやコミュニティ・ディベロップメントの様々な論者によって実践と研究に役立つ資源として提案されている（たとえば、McIntyre 1986; Seed 1990; Folgheratier 2004; Gilchrist 2004; Hardcastle, Powers and Wenocur 2004; Kirke 2009; O'Connor et al. 2006）。しかし、コミュニティの実践におけるその使用を調査することを目的とした研究はほとんどない。LNCの場合、ソーシャルネットワーク図は、コミュニティワークの「関係づくり linking up」の側面に戦略的な感覚を提供するのに役立った」。
- ・「プロジェクト前の図では、バゴットコミュニティの参加者は互いに接続されていたが、ルドミラでは他の人とは接続されていなかった。これは、ソーシャルキャピタルの観点からのつながりの欠如を示唆している。LNCのメンバーは、ネットワーク構造の原因、影響、およびそれに対して何が行なえるかを検討することができた。」
- ・「様々な活動の組織化や参加を通じて生まれた新しいつながりにより、参加者は知識や文化を共有することができた」。
- ・「プロジェクト前後の図を比較すると、より接続され、成長する LNC ネットワークの形成に関するエビデンスを明確に示すことができる。この情報と他の（定性的）データとの組み合わせは、このプロジェクトが個人やネットワーク構造に及ぼすインパクトの一部を視覚化して理解するための優れた方法だった」。
- ・「ネットワークのアイデアは、コミュニティのニーズではなく、コミュニティが有しているものに焦点を合わせるという点で、強みのアプローチ（Kretzmann and McKnight 1993）にうまくリンクしており、ネットワーク図は、特定された資産（人とその文化を含む）をリンクするための焦点を提供した。ソーシャルネットワークの図と分析は、橋渡しのつながりの必要性をよりよく理解し、それらの発展を測定できるという点で非常に役に立った」。

③批判的思考を促進するためのソーシャルネットワーク図の使用

- * コミュニティの結束を目標とするプロジェクトは、同化をせまる支配的な文化（ここでは特に深い人種差別）による「均質化」を助けてしまうおそれがある。
 - * グループ間のつながりをつくる対話が「根深い人種差別に対処するための戦略」となりうることを発見した。
- その場合、強制ではなく、対話の始まりを作り、力の不均衡への対処を支援するファシリテーターのスキル（調停やコミュニティ教育など）が必要。

- ・「コミュニティ・ディベロップメントのための資産とネットワークのアプローチに対する主要な批判の一つは、コミュニティにおける差異または抑圧に対処するための有用なフレームワークの欠如である（Healy 2005, 2006; Curtis 2010）。この批判は、ここで議論されているプロジェクトに真に関連している。プロジェクトのファシリテーターは多様性と違いを尊重したが、一部の参加者はそうしなかった。参加者は非常に異なる政治的および哲学的見解を表明した。一部は露骨に人種差別的であり、すべての文化を支配的

な（『白人オーストラリア人』）文化に同化することを目的としていた。これらの見解は、オーストラリアのダーウィン、特に植民地化に関する広範な問題を反映しており、（おそらく無意識に）コミュニティをよりまとまりのあるものにするためにコミュニティを『均質化』しようとしている」。

- ・「この研究は、異文化グループの接触の構築は、地域関係レベルにおける根深い人種差別に対処するための戦略と見なすことができることを発見した。LNC は、単に『人々を同じ空間に（物理的または心理的に）』入れようとするだけで影響を与えるのではなく、社会的な架け橋を構築し、理解することを目的とした対話の始まりを開くことができる。これには、いくつかの既存の力の不均衡への対処を支援するために、特定の円滑化スキル（調停、コミュニティ教育など）が必要だった。多くの点で、これはプロジェクトの最も困難な側面だった」。

④プロジェクトの結果を理解するためのネットワーク分析

- *つながりの増加を測定・可視化することができる。
- *新しいリンクを形成し、以前存在していなかったグループ間で情報や資源が流れる機会をひらくことが重要である。（弱いつながりづくりの意義）
- *ネットワーク分析は、変化するコミュニティ構造をとらえ、他の評価方法に深みと焦点を追加する。

- ・「多様な文化グループを超えて社会的つながりを増やすという目的に沿ってプロジェクトの成果を測定するという点で、ネットワーク分析は、平均してつながりが増加していることを示した」。
- ・「ソーシャルネットワーク分析は、LNC ネットワークの凝集性を理解する方法も提供した。LNC ネットワークの凝集性は 19 か月の期間でわずかに増加したが、特に凝集性の高いネットワークはなかった。ただし、これは当然のことで、他の文献が実証しているように、互いにほとんど共通性のない多様な人々のグループを持つコミュニティに、高い凝集性はない（Cheong 2006; Jaffe 2006; Letki 2008）。重要なことは、多様なグループ間に新しいリンクが形成され、以前存在していなかったグループ間で情報やその他の資源が流れる機会をひらくことである」。
- ・「ソーシャルネットワーク分析は、プロジェクトの 19 か月にわたる LNC ネットワークの構造変化を実証するのに有用だった。他の定性的な方法（より幅広いケーススタディで使用されたもの）と比較して、ネットワーク分析は、調査者が一歩引いて、関係がどのように変化するかを考えるためのより『ズームアウトされた』風景を提供した」。
- ・「こうした分析は、コミュニティワークの成果についての別の種類の理解を提供する。参加者がプログラムについてどう思うかを知ることは重要だが、ネットワーク分析により、変化するコミュニティ構造の調査が可能になる。われわれはこれにより、他の評価方法に深みと焦点の両方が追加されると信じている」。
- ・「ソーシャルネットワーク分析は、アクターの属性別の集計ではなく、アクター間の関係

に関心がある。焦点は個人ではなく関係にある。ソーシャルネットワーク分析は、プロジェクトの前後のネットワーク内の関係の測定に提供された。このような分析により、LNC ネットワーク内の人間関係が、より広範な社会構造をどのように反映または再現するかが明らかになる。LNC におけるアボリジニと非アボリジニとの新しいつながりは、ポジティブな変化と見なすことができ、対話を促進し、関係するすべての人々の異文化理解の観点から新しい機会と資源をひらくことができる」。

⑤コミュニティ・ディベロップメントにおけるソーシャルネットワーク分析の限界

* ネットワーク分析は文化や人的機関、コミュニティへの影響を扱えない。

→ 方法の一つ。より定性的な方法と組み合わせる。

* しかし、ネットワーク分析は、社会構造のスナップショットを捕捉できる。

→ 特定の時点での人々のリンクとつながり (links and ties) を検討し、その後の経時変化を理解することができる。

・「社会的なつながりは常にポジティブであるとは限らず、支配的で不公正なイデオロギーとシステムを抑圧し、再生産するのに役立つ (Bourdieu 1986; Portes and Landolt 1996; Wilson 2005)。他の人が議論したように、ソーシャルネットワーク分析は、文化や人的主体 (Wellman 1983; Emirbayer and Goodwin 1994)、およびコミュニティへの影響についての理解を提供できない。コミュニティネットワークの意味、およびコミュニティネットワーク内で作動する権力、文化、歴史のダイナミクスに関する重要な理解は、ソーシャルネットワーク分析をより定性的な方法と組み合わせることから得られるものであると私たちも考えている」。

・「このネットワーク分析は、LNC プロジェクトのプロセスと影響を調査および理解するために使用されるケーススタディの枠組みに組み込まれた複数の方法論の 1 つにすぎなかった。私たちが実証したいと思っているのは、ネットワーク分析によって、他の方法ではできないこと、つまり社会構造のスナップショットを捕捉できるということである。これらのスナップショットを使用して、特定の時点での特定のネットワーク内の人々のリンクとつながり (links and ties) の観点から何が存在するかを検討し、その後の経時変化を理解することができる。ネットワーク分析は、私たちが作成し、社会構造によって作成される方法を探るのに役立つ」。

ディスカッション

・ ネットワーク分析のアウトプットでは、関係性の中身までは分からない。地域福祉の関心からすると、他の方法との組み合わせが必要であるというのは著者の言うとおりの。

・ ネットワークサイズの拡大が単純に良いとは言えない。むしろ単純化して可視化することで「できている」という安心を生んでしまうのではないかという危惧を感じる。

・ 社会福祉協議会の「つなぐ」は、組織間ネットワークに軸足がある。組織論を参照してとらえると良いのではないか。

- 80年代の在宅福祉で資源が乏しかった時代は支援者同士が「つながる」しかなかった。そうした状況にネットワークという概念はフィットした。この実践を吸収して介護保険制度が成立し、ケアマネジメントの仕組みができた。介護保険制度内ではつながるのが当たり前になっている。(制度外のとつながりが課題?)